

Sharing

シェアリング～わかちあい～

第2号の特集記事!

<特集1>
「下野市男女共同参画推進委員会
陣内委員長へのインタビュー」

◇陣内 雄次 さん



平成18～19年度「下野市市民力養成講座」の講師としてご講義いただきました。また、先生は、下野市の歴史の深みと自然の豊かさに感動されています。宇都宮大学の先生の研究室で、これからの下野市における「男女共同参画の推進」についてのお考えを伺いました。

<プロフィール>

- ・下野市男女共同参画推進委員会委員長（2期目）
- ・宇都宮大学教育学部 家政教育専攻 教授（住環境・まちづくり研究室）

<特集2>
「下野市の市民の皆さんによる『言いたい放題!? 座談会』」

◇下野市在住の女性5名、男性3名の方が参加しました。本音で語りあう中で見えてきたことは…。



コミュニティセンター友愛館
(座談会会場)

タイトル由来

みんなが“わかちあう”大切さをもって、男女が協力しながら、男女共同参画社会をつくっていかれたらとの願いが込められています。

ある共働き夫婦の一日



座談会を終えて!!

Cさん：いつでも誰でも気軽に立ち寄れて出会いや生甲斐つくりの場として、陣内先生の「コミュニティ・カフェ」のようなものが下野市にあるといいですね。

Eさん：女性があちこちに進出できるようになり、JAでは女性の組合員も増え、女性の理事もいます。私たち女性自身が努力し、いろんな場所でいろんな意見が言えるように、常に向上していきたいと思えます。

Aさん：遠方住まいの夫の父が介護サービスを受けつつ、一人暮らしをしています。離れて初めて、夫も介護について考えるようになってきました。会社からも支援が受けられるようになったらと思います。

Bさん：母たちの世代は、「○○やっているのに●●やってくれない」と言うけれど、私たちはそう感じることはありません。「誰かやれる人がやればいい」という感覚です。また、結婚したら（主に女性の）姓が変わるのはなんで?と思いつつも、どんな姓が変わるのかを（楽しみとして）話したりする、結婚に対してのロマンを感じるようなところもあっていいと思います。格差ではなく、男または女の方がよりよくできる、そんなところを互いに分かり合っていけたらいいなと思います。

Gさん：若い方は力が入っていないですね。自然に受け入れて、自然に行動していると思います。

Fさん：人に何かを求めようとは思わず、自分で変わらないと。格差と思うこと自体がひがみになってしまうこともありますので、個人個人が意識を変え、自分が変わっていくことが必要なのではないでしょうか。

Hさん：セクハラもパワハラも同じように、自分が感じたときに生じるもの。それを感じている状態は病気でいえば重症なので、治すための薬や休みが必要。そのためにはどうすればいいのかを考えられればいいなと思います。

Dさん：これを機に、情報紙をたくさんの方に見ていただきたいですね。

参加された皆さん方は、自分の家庭における身の回りのことから地域での出来事や仕事上の事例等を含めて、本音でお話いただきました。

この記事をお読みになられた皆さんは、いかがお感じでしょうか? ご自分に置き換えて、是非ご参考になさってください。

編集後記

今回、第2号の発行にあたり「下野市男女共同参画推進委員会」委員長の陣内先生へのきらめきインタビューと、下野市民参加による「言いたい放題!?座談会」を企画し、「男女格差を感じる時」をテーマに、和やかな雰囲気の中で語り合っていたいただきました。

いま男女共同参画に携わるものとして、私たち一人ひとりが踏み出した一歩が、若い世代（子どもの未来）につづくことを願ってやみません。

まずは、毛嫌いせず男女共同参画情報紙編集委員の想いのこもった情報紙を一度手にとってみてください。ぜひ!

<編集委員> 松本文男、高木智子、上野秋江、山口容子、楡木悦夫、蓮見忠夫

企画・編集 下野市男女共同参画情報紙編集委員会

発行 下野市総合政策室

〒329-0492 栃木県下野市小金井1127番地

TEL: 0285-40-5550 FAX: 0285-40-5572 E-mail: sougouseisaku@city.shimotsuke.lg.jp